平成１８年３月

「地域子ども教室推進事業」実施状況調査報告書の概要について

１．調査の趣旨

文部科学省は、安全で安心して活動できる子どもたちの活動拠点を設け、地域の様々な大人が主体的に子どもを見守り育んでいく「子どもの居場所づくり」に積極的に取り組んでいる。

具体的には、平成１６年度からの緊急３カ年計画で、子どもたちの放課後や週末等の時間に、地域の大人にボランティア参加を募り、学校等を活用して子どもたちに様々な体験活動や地域住民との交流活動などを行ってもらう「地域子ども教室推進事業」を展開・支援している。

平成１９年度以降も各地域で継続的な取組が推進されるためには、「子どもの居場所づくり」とその運営体制の基礎が確立され、地域の自主的・独自的な活動へと円滑に移行できる基盤づくりが重要である。

このため、本調査は「地域子ども教室推進事業」の実施によって得られた成果や課題などを調査研究し、広く全国に情報提供することにより、各地域の取組を一層推進させることを目的として実施したものである。

２．調査の対象

調査対象	アンケート票の対象者	配布方法	対象数	回答数	回答率
運営協議会	都道府県・政令指定都市レベルの運営協議会全て	直接送付	57	57	100%
実行委員会	都市階層別に任意に抽出した市区町村レベルの実行委員会	直接送付	220	169	76.8%
実施学校	地域子ども教室の活動場所となった小・中学校	調査対象となった実行委員会より配布	440	206	46.8%
実施施設	地域子ども教室の活動場所となった学校以外の施設（公民館、児童館など）	調査対象となった実行委員会より配布	440	190	43.2%
未実施学校	地域子ども教室の活動場所となっていない小・中学校	調査対象となった実行委員会より配布	440	226	51.3%
コーディネーター	調査対象となった実行委員会において活動しているコーディネーター	調査対象となった実行委員会より配布	660	330	50.0%
指導員等	地域子ども教室で活動している指導員及びボランティア	調査対象となった実行委員会より配布	2,200	1,089	49.5%
子ども	地域子ども教室で活動（登録）している児童・生徒	調査対象となった地域子ども教室より配布	26,400 (6,600)	9,027 (3,307)	34.2%
	活動場所となっていない学校の小３・小６・中２の各児童・生徒	未実施学校にてクラス単位で配布	(19,800)	(5,720)	
保護者	地域子ども教室で活動（登録）している児童・生徒の保護者	調査対象となった地域子ども教室より配布	26,400 (6,600)	8,545 (3,786)	32.4%
	活動場所となっていない学校の小３・小６・中２の各児童・生徒の保護者	未実施学校にてクラス単位で配布	(19,800)	(4,759)	

３．調査の方法

平成１６年度には、全国の都道府県・政令指定都市が中心となった５７運営協議会において４，１９２カ所の地域子ども教室が実施されている。

任意に抽出した上記表の調査対象に対して、運営体制等の実態や関係者の意識等を把握するためのアンケート調査を実施するとともに、平成１６年度事業終了時に文部科学省に提出された事業報告書の記載内容（実施回数等）を整理し、調査・分析を行った。

（全国規模のＮＰＯ団体等が実施する「地域子ども教室推進事業」の実施箇所については、今回の調査の対象から除いている。）

４．調査の時期

平成１７年８月～９月

（調査票の回収については、１１月末まで返送されてきたものを集計した。）

５．調査事項

（１）実施者（運営協議会、実行委員会）、子ども（登録・非登録）及びその保護者、指導員・ボランティア、コーディネーター、学校（事業実施、未実施）、施設（事業実施）に対してアンケート調査を行い、子どもや関係者の事業実施前と現在の意識の変容や事業を通じた行動の変化などについて

（２）平成１６年度実績の結果をもとに、本事業の開催状況や参加者・関係者数の把握及び相関関係について

６．調査主体・調査実施機関

調査主体：地域子ども教室推進事業普及委員会

文部科学省生涯学習政策局において、地域子ども教室推進事業の一層の普及に資する目的で、学識経験者等による「地域子ども教室推進事業普及委員会」を設置し、調査の方針や項目などの検討を行った。委員については以下のとおりである。

伊藤　康志　　琉球大学教授
岡田　俊樹　　大阪市教育委員会事務局教育施策担当部長
小澤紀美子　　東京学芸大学教授
猿渡　智衛　　弘前大学大学院地域社会研究科大学院生
○西岡　伸紀　　兵庫教育大学大学院教授
濱田　　崇　　弁護士
鍋島　　豊　　岡山県教育委員会生涯学習課長

（平成１６年１０月～平成１７年３月　渡邉　倫子　役職同）

（以上、五十音順　○：座長）

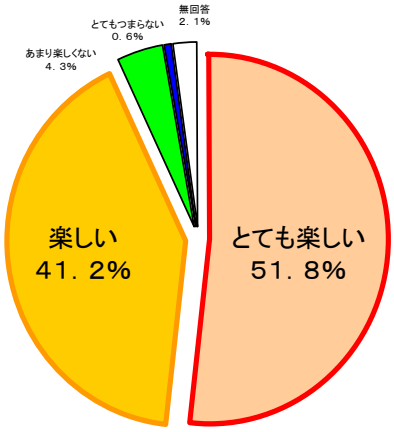
調査実施機関：財団法人日本システム開発研究所

地域子ども教室推進事業実施状況調査結果のポイント

Ⅰ　地域子ども教室推進事業の評価は次のようになっています。

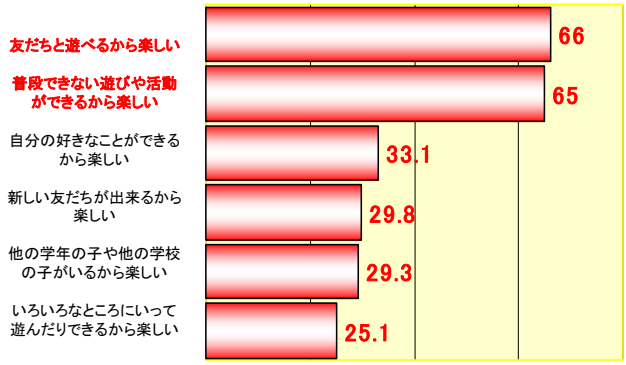
1．参加している子どもの9割は、地域子ども教室での活動を楽しんでいます。

あなたは、「地域子ども教室」に来ていて、楽しいですか？



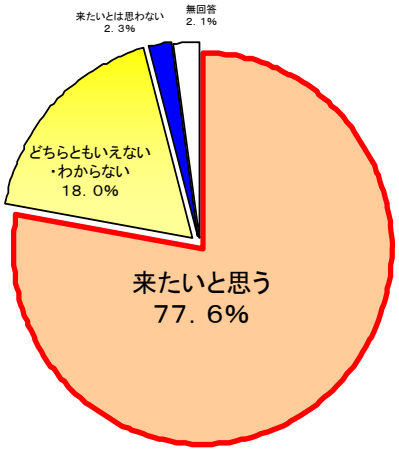
（N＝3307）

あなたが、「地域子ども教室」に来ていて、とても楽しい・楽しいと思うのは、どうしてですか？



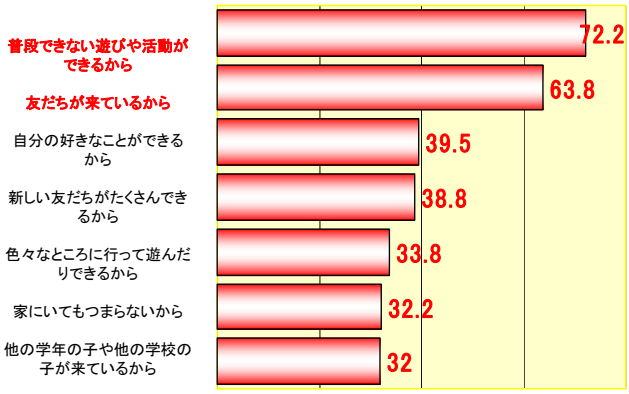
（N＝3075）　%

あなたは、これからも「地域子ども教室」に来たいと思いますか？



（N＝3307）

あなたが、これから「地域子ども教室」に来たいと思うのはどうしてですか？



（N＝3086）　%

◆子どもにとって、普段出来ない様々な活動ができる点が「楽しさ」を感じるポイントに

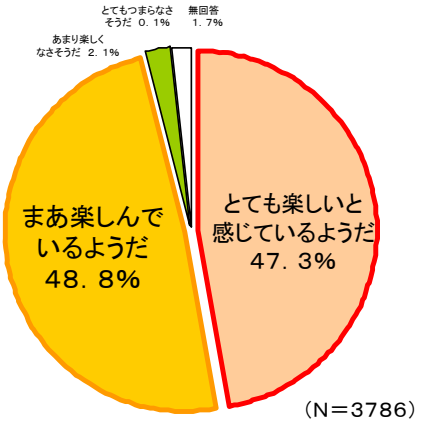
地域子ども教室に来ている子どもの9割以上が、地域子ども教室での活動を「楽しい」と感じており、また8割近くがこれからも地域子ども教室に来たいと思っていることが明らかになった。

地域子ども教室を「楽しい」あるいは「また来たい」と感じる理由としては、「普段できない遊びや活動ができるから」という点が強く、子どもにとって普段の生活ではできない様々な体験活動ができる点が楽しさを感じる大きなポイントとなっていることが分かる。

この「普段できない様々な活動」には、一人ではできないスポーツや自然体験、昔遊びや囲碁・将棋など、まさに多様な活動内容そのものが挙げられるが、こうした活動内容の多様性のみならず、「みんなと一緒に遊ぶ」「色々な大人の人と触れ合える」「みんなの前で発表する」など、地域子ども教室ならではの活動形態自体が子どもにとって「普段できない活動」であり、「楽しさ」を感じる理由となっている点も興味深い。

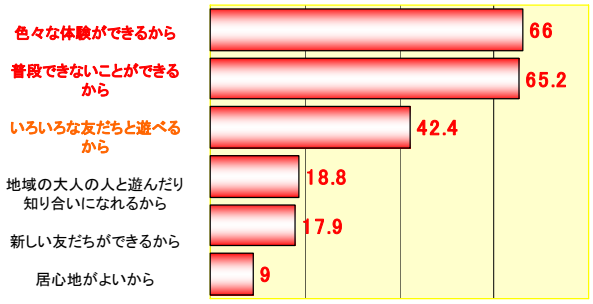
2. 様々な体験活動ができると、保護者も高く評価しています。

お子さんは、地域子ども教室での活動をどのように感じているようですか？



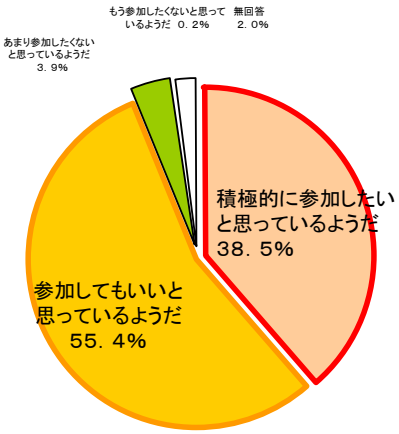
（N＝3786）

具体的にはどのような点でとても楽しい・まあ楽しんでいると感じているようですか？



（N＝3786）

お子さんは、今後も地域子ども教室に参加したいと思っているようですか？



（N＝3786）

◆子どもの地域子ども教室への参加を通して、家庭での親子のふれあいが増している

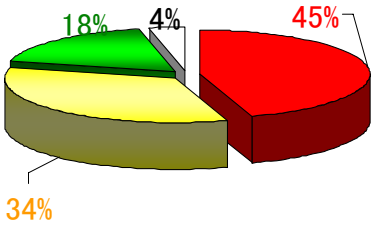
地域子ども教室に参加してからの子どもの変化については、前述のとおり、地域活動への関わりや自主性・積極性の向上などの面で比較的高く評価されているが、家庭での子どもとのふれあいについても変化が見られている。例えば、地域子ども教室のことを子どもと話したり、教室で習ったことを家庭で親子でやってみたりするという保護者は75%に及んでおり、また4割以上の保護者が、子どもが地域子ども教室に参加するようになって親子の会話が増えたとしている。

すなわち、普段の生活ではなかなかできない様々な活動を地域子ども教室で経験することにより、家庭での親子の会話（話題）が増えるとともに、保護者に対しても子どもの様子や変化により注意を払うようになるなど、家庭教育の充実においても大きな効果があると考えられる。

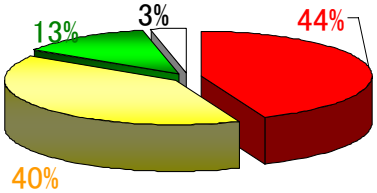
3. 地域子ども教室に参加した子どもは、家庭・学校・地域において、積極的な態度を見せはじめています。

あなたは、地域子ども教室に来る前とくらべて、いつもの生活の中で何か変わったことはありますか？

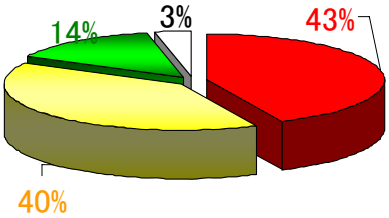
教室のことを家の人と話したりするようになった



学校に行くのが楽しくなった



地域の大人の人と挨拶をしたり話をしたりするようになった



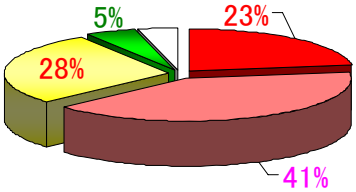
（N＝3307）

そう思う　どちらとも言えない　そう思わない　無回答

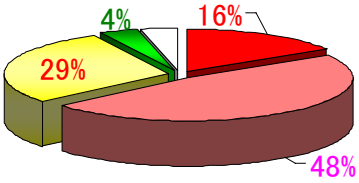
4. 保護者も地域子ども教室の活動をとおして、子どもの成長を感じています。

お子さんが地域子ども教室に参加してから、どのような点がどれくらい変わったと感じますか？

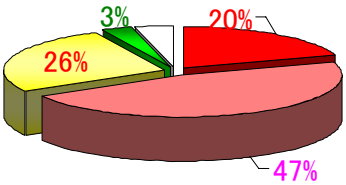
地域の行事に積極的に参加するようになった



地域の大人の人と挨拶をしたり話をしたりするようになった



興味のあることは自分で調べたりするようになった



（N＝1473）

とても変わった　少しは変わった　あまり変わらない　全く変わらない　無回答

◆活動に参加したことによる子どもたちの前向きな変化を感じている

子ども自身が、地域子ども教室に参加する前と後とで自身の様々な面での前向きな変化を感じている。特に、「学校に行くのが楽しくなった」、「地域の大人の人と挨拶をしたり話をしたりするようになった」、「教室のことを家の人と話したりするようになった」などの点について、自身の変化を感じる子どもが多く、その傾向は低学年ほど顕著である。

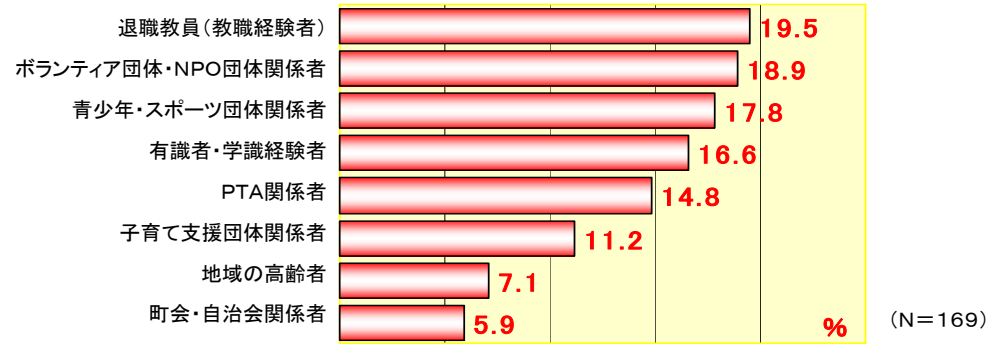
また、こうした子どもの変化については、保護者や指導員・ボランティアからも高く評価されている。保護者からは、子どもが地域の行事に積極的に参加するようになったり、地域の大人の人に挨拶をしたり話をしたりするようになったなど、子どもが地域とのかかわりを持つようになった点が変化として捉えられている。また、「興味があることは自分で調べたりするようになった」など、主体性・積極性が増したことなども評価されている。

指導員・ボランティアからは、こうした点のほか、違う学年の友だちと遊ぶようになったことや、年下の子どもの面倒をよく見るようになったことなど、様々な年齢の子ども同士の交流が増した点が変化として捉えられている。

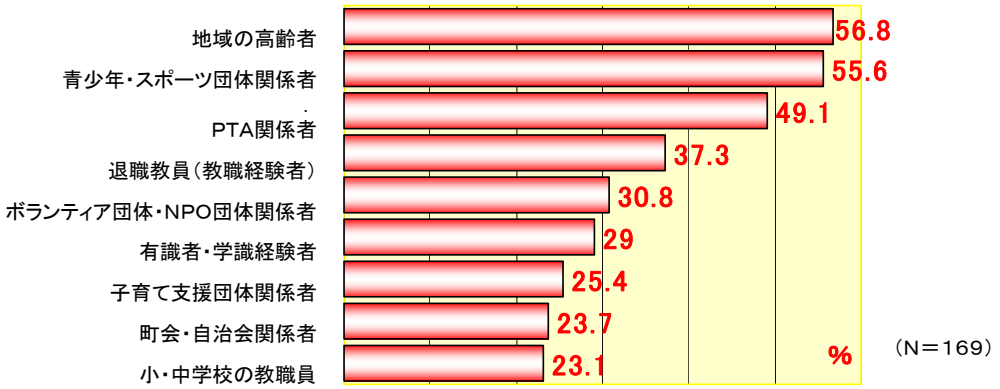
5. 地域子ども教室は、地域の様々な大人が中心となって取り組んでいます。

貴実行委員会では、どのような方が地域子ども教室のコーディネーターや指導員、ボランティアとして配置されていますか？

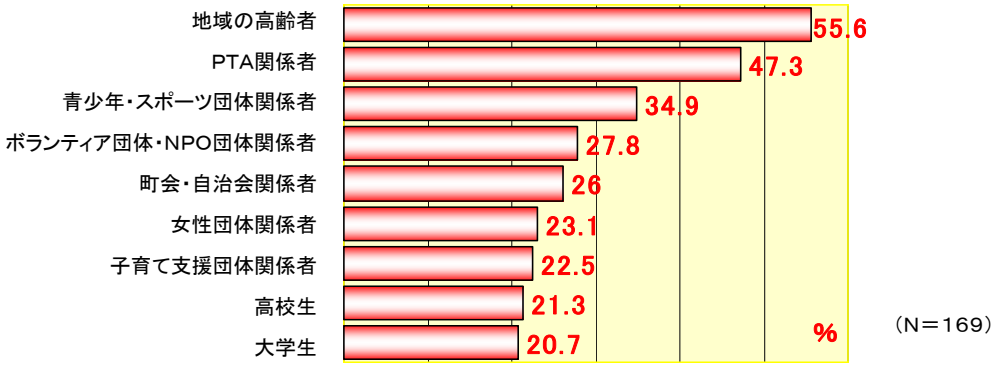
コーディネーターをされている方（上位8項目）〔平均多重回答数1．5〕



指導員をされている方（上位8項目）〔平均多重回答数4〕



ボランティアとして参加をされている方（上位8項目）〔平均多重回答数3．7〕

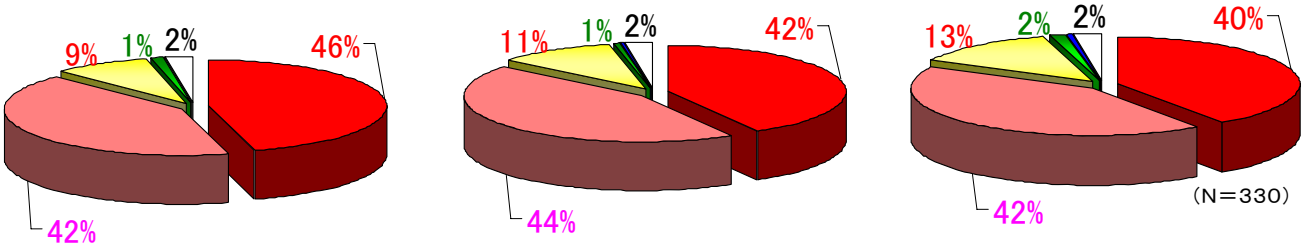


6. 参加した大人自身も、活動をとおして自分自身の変化を感じています。

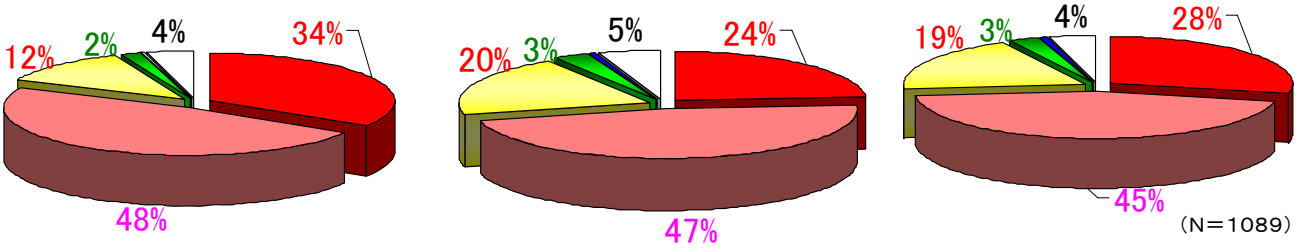
地域子ども教室に参加したことによって、あなたご自身の気持ちや暮らし方に何か変化はありましたか？

地域の子どもに対する意識や関心が高くなった	子どもの居場所づくりに関する取組に対して関心が高くなった	地域の中に友人・知人が増えた

【コーディネーター】



【指導員・ボランティア】



とてもそう思う　どちらかと言えばそう思う　どちらとも言えない
あまりそう思わない　まったくそう思わない　無回答

◆参加する地域の大人自身にとっても地域とのつながりを深めるきっかけに

指導員・ボランティアやコーディネーターとして参加した人自身が、本事業への参加を通じて「地域の子どもに対する意識や関心が高くなった」「地域の人の中に知人や友人が増えた」「地域で色々な子どもに声をかけたり交流をもつようになった」など、自身の中での子どもの居場所づくりや地域社会に対する意識・関心の高まりを感じている。また、活動に参加した指導員等の大部分は、今後も地域子ども教室での活動を続けたいとしている。

こうした点から、地域の大人が中心となって活動を支える地域子ども教室の取組は、参加する大人自身にとっても地域とのつながりを深めるきっかけとして重要な役割を果たしているといえる。

7. 関係者は地域子ども教室の活動をとおして、地域内の前向きな変化を感じています。

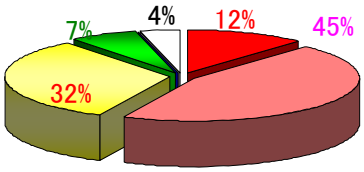
地域子ども教室の実施前と実施後とを比較して、地域の大人や保護者に何か変化は見られましたか。

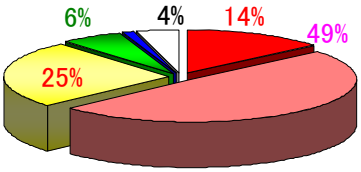
地域の子どもに声をかけたり、遊んだりする人が増えたと思う

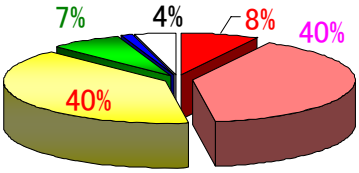
地域子ども教室に参加する人が増えたと思う

大人同士が挨拶を交わしたり、よく話すようになったと思う

【コーディネーター】

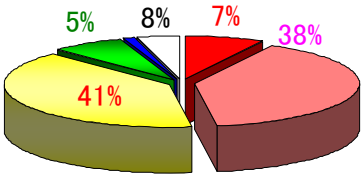


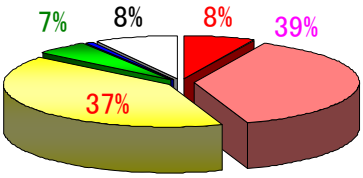


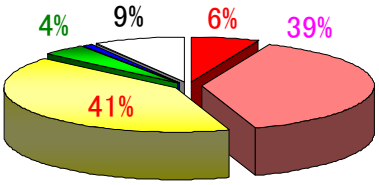


（N＝330）

【指導員・ボランティア】







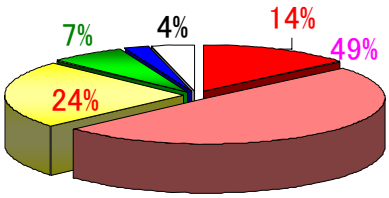
（N＝1089）

とてもそう思う　どちらかと言えばそう思う　どちらとも言えない
あまりそう思わない　まったくそう思わない　無回答

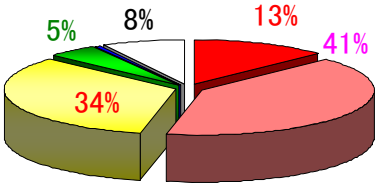
地域子ども教室を実施したことによって、地域社会に何か変化は見られましたか。

様々な面で学校と地域の協力・連携が進んできたと思う

【コーディネーター】



【指導員・ボランティア】

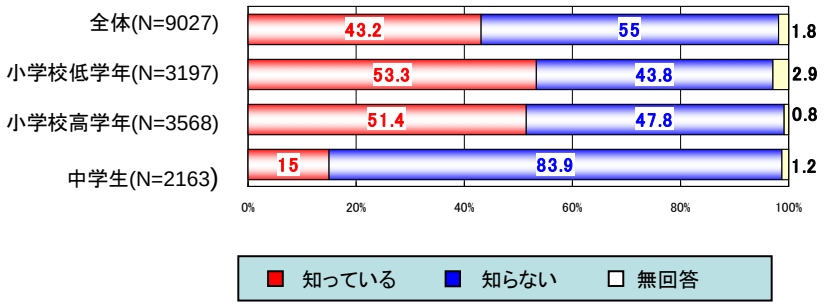


とてもそう思う　どちらかと言えばそう思う　どちらとも言えない
あまりそう思わない　まったくそう思わない　無回答

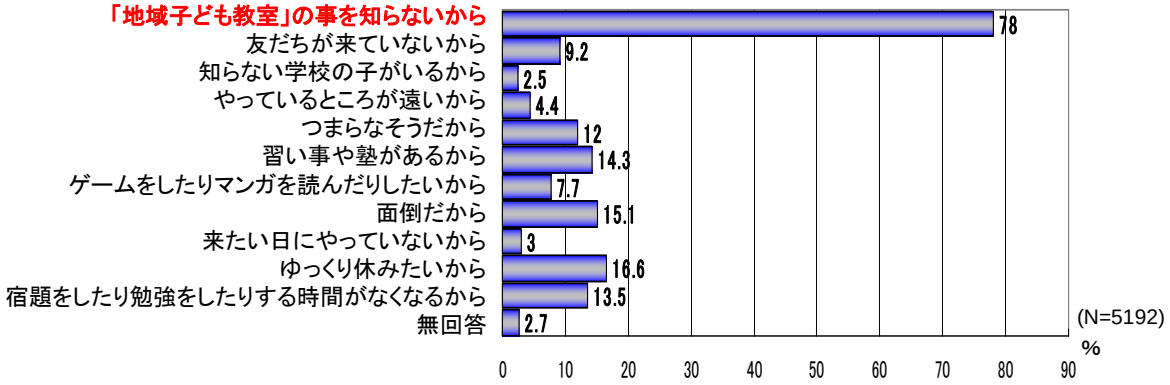
Ⅱ　一方、課題として次の点が浮かび上がっています。

1.「子どもの居場所づくり」についての認知度が低い。

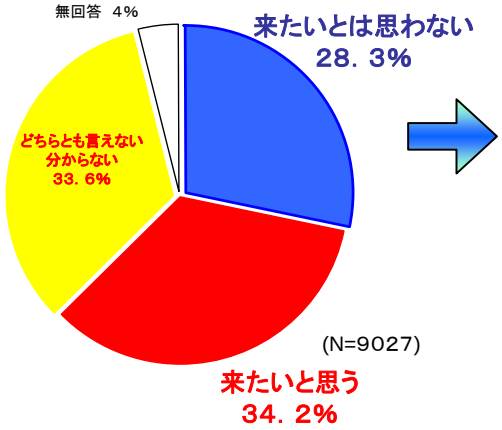
あなたは「地域子ども教室」を知っていますか。



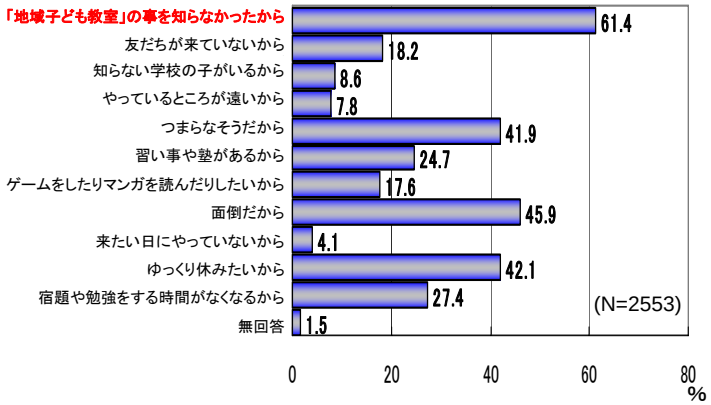
「地域子ども教室」に来ていない人にだけ、おききします。あなたが「地域子ども教室」に来ていないのは、どうしてですか。



あなたは「地域子ども教室」に来たいと思いますか。



（来たいとは思わないと答えた子どもに対して）
来たいと思わないのはどうしてですか。

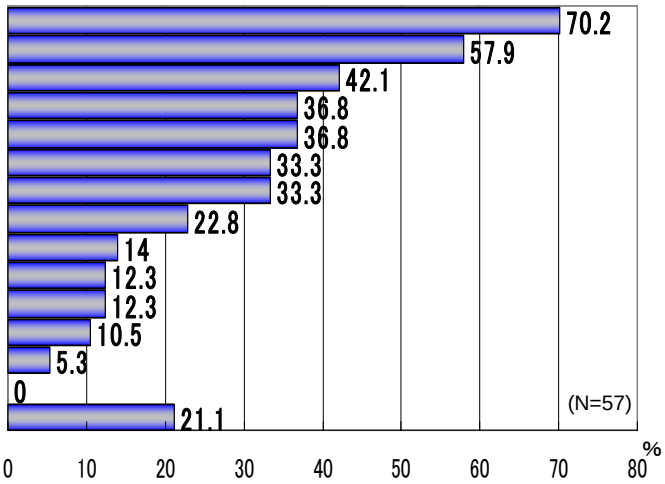


◆親の勧めや友だちの誘いのほか、ポスターやチラシをみて参加した子どもも少なくない

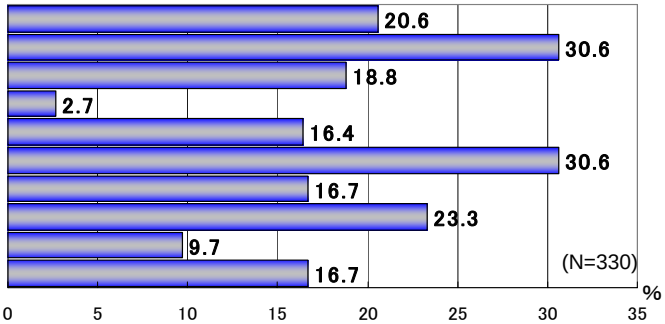
地域子ども教室に参加するようになったきっかけをみると、親から勧められたり友だちから誘われたというケースが多いが、特に高学年になると、ポスターやチラシをみて参加したという子どもも多くなっている。また、地域子ども教室に参加していない子どもについては、不参加の理由として「地域子ども教室のことを知らなかったから」が最も多くなっていることとあわせると、地域子ども教室の活動についてより子どもの目に留まるような広報を充実することが、今後の参加者拡大に向けて重要なポイントとなることが示される。

2. 地域の大人の方々の協力など、人材の確保・育成が困難。

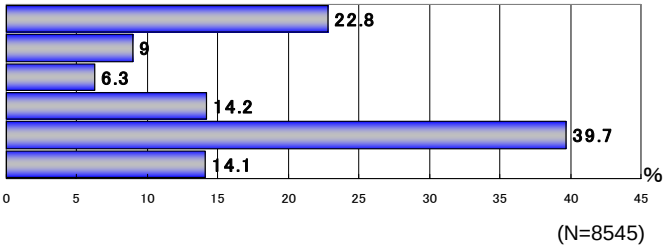
貴運営協議会では、「地域子ども教室推進事業」を実施してみて、事業運営上どのような課題があると思われますか。



あなたがコーディネーターとして「地域子ども教室推進事業」に関わる中で、何か困ったことや問題となったことなどはありましたか。



（保護者に対して）あなたご自身は、今後、地域子ども教室の運営に参加・協力したいと思いますか。



◆「子どもの居場所づくり」を支える地域の“人財”の確保・養成が重要

事業委託先である運営協議会や、再委託先である実行委員会では、事業運営上の課題として、「コーディネーターや指導員等の人材の確保が困難」を一番の課題として挙げている。また、運営協議会の7割以上が今後本事業を一層推進するためには、「活動を主体的に牽引する地域リーダーの育成が最も重要であると認識している。コーディネーターについても、困ったことや問題となったこととして「学校行事との調整」とあわせて、「指導員やボランティアの確保」が困難だったと指摘している。

保護者に対して、今後の地域子ども教室への運営に参加・協力したいと思うかという質問に対して、最も多かった回答が「運営には参加・協力したいと思わない」であった。活動への理解は比較的高いものの、保護者自身の参加となると否定的になってしまうと言わざるを得ない。

「子どもの居場所づくり」が定着するためには、地域の人材の確保・養成がうまくいくかどうかが重要な一つのポイントになると思われる。